

此度罷出極印可請之、且又江戸運送之序無之船は、船數委細書付、御料私領共に、川船奉行江差
出置重而改を請極印可受之候事、

一 武家之乗船、其外わけ有之而、諸々より極印不受船は、船數委細書付、川船奉行江相達帳面ニ可
附置候事、

以上

十二月

享保六丑年三月

一 關八州川船之事去子之年迄は、川船奉行相改候所、向後棟梁鶴飛驒相改筈に候、御年貢役銀取
立候儀は勿論船改を始、新造船潰船等之義迄、諸事飛驒差圖之趣、違背不仕様に、川船所持之者
共可申付旨、町中可觸知者也、

三月

〔徳川禁令考二十七川船役所〕享保六丑年

川船役所勤方船役銀取立等之定書

定

一 毎年八月より翌年五月迄、川船御年貢并役銀納可申事、附御年貢手形番所におゐて改を請可
申事、

一 御年貢手形無之船、他之船之御年貢手形を借リ候ニおゐては、貸シ人借主共ニ可爲曲事事、
一 往還之船、不限晝夜番所にて相斷可通、若かくれ之のび於致往還は、曲事たるべき者也、

享保六年丑三月

奉行

右之高札、關宿、猿江、橋場、三ヶ所船改番所、古來より相建候、